

JGG-Info-Blatt FRÜHLING 2020

一般社団法人 日本独文学会

Japanische Gesellschaft für Germanistik e.V.

ニュースレター2020 春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2020

まえがき

会員の皆様

Info-Blatt2020 春号の刊行にあたって、コロナウイルスをめぐりさまざまな困難な状況に置かれていらっしゃるであろう皆さまへのお見舞いを申し上げることから始めねばならないのは残念なことです。

さまざまな行事や学会・研究会が中止ないし延期され、多くの分野で支障が生じています。渡航制限は留学生と研究者の皆さんに多大な困難をもたらし、4月以降の授業形態についても不透明な状態のままです。会員の皆様も、それぞれの職場や学びの場で不安な状態に置かれていらっしゃるものと存じます。本学会においても、誠に残念なことです。文化ゼミナールと教授法ゼミナールの中止を決定しました。多くの時間と労力をかけて準備にあたってこられた実行委員会の皆さんと、個別発表やディスカッションに向けて準備を進めていらっしゃった参加者、そして招待講師の皆さんの落胆はいかばかりかとお察しいたします。状況の許す限り、予定されていた形での来年の開催を目指して努力していく所存です。

東京都も、週末の外出を控えるようにとの勧告を本日（これを書いているのは3月25日です）出しました。春学会の開催に関しても、真剣に検討すべき時期になっています。HPの告知にある通り、4月7日の決定に向けて協議を行っているところです。

それぞれの国ができるだけ自らを閉ざそうとしている現在の状況をみるにつけても、昨年8月26日から29日に開催されたアジアゲルマニスト会議の成功が懐かしく、貴重なものとして思い出されます。実行委員会の長期にわたる準備により、国内、国外から多くの参加者を迎えることができ、活発な議論の場となりました。アジア諸国のゲルマニストがいっそう交流を深めることを展望しつつ、会は終了しましたが、その成果は、改めてオンラインで公開される予定とのことです。実行委員会の皆様、協賛いただいた日本学術振興会、ドイツ学術交流会、北海学園大学、ドイツ語学文学振興会、東京ドイツ文化センター、そしてご参加いただいた会員の皆様にあらためて御礼申し上げます。

学会としては、さらなる国際化への試みも続けています。その一環として、『ドイツ文学』にあらたな国際編集顧問を迎えることになりました。国際誌の内容の充実のためにも、いっそう積極的なご投稿をお願いします。

日本独文学会会長への就任にあたって、〈学術情報の発信〉〈人的交流の促進〉〈後進の育成〉に力をいれながら組織のスリム化を図る、という課題を挙げました。理事の皆さんにいろいろなお知恵を出していただき、さまざまな突発的状況

への対応に追われつつも、少しずつ進めているところです。一例ですが、岩崎奨学金は若手の出版助成という形で再出発することとなりました。今後とも、ご意見・ご要望をお寄せください。

最後に、事態が一日も早く収束し、社会が、そして日本独文学会が通常の活動に戻ることを願しつつ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

会長 宮田眞治

目 次

まえがき

ご案内

会費納入について	1
ドイツ語教育部会総会のお知らせ	2
第48回語学ゼミナール開催のお知らせ	3
48. Linguisten-Seminar der JGG	5
DAAD 奨学金についてのご案内	8
ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ	10
一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金の改定について	13

報告

第17回日本独文学会・DAAD 賞選考結果	15
日本独文学会 2019 年度秋季研究発表会報告	16
第47回語学ゼミナール報告	17
日本独文学会研究叢書既刊一覧	22
2019 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告	23
2019 年度ドイツ語論文執筆ワークショップ開催報告	25
支部報告	26
ドイツ語教育部会報告	36
ドイツ語学文学振興会より	38
2019 年度全国大学院 Germanistik 関係論文題目	39

その他

『一般社団法人 日本独文学会名簿（2019 年発行）』正誤表	42
訃報	43

あとがき

44

会 費 納 入 に つ い て

会員の皆様におかれましては、すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して、年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、以下の点をご確認ください。

【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方、常勤職をお持ちでない方、学生の方は、ご本人からのお申し出によって、年会費の割引を受けられます。会費規程 (http://www.jgg.jp/modules/organisation/index.php?content_id=459) をご確認の上、事務局までお申し出ください。

【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は、自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

2020 年度振替日は 7 月 1 日（水）ですので、すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。また、振替口座等の変更や年会費割引のお申し出は 4 月末までに事務局までご連絡ください。振替日は年に一度のみです。7 月 1 日（水）に振替ができなかった場合は、郵便振込をお願いしています。

【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には、5 月、6 月の間に学会年会費納入のお願いと払込取扱票をお送りする予定です。

また、2020 年 6 月 6 日（土）、7 日（日）に東京大学（本郷）で開催される春季研究発表会の会場で、研究発表会参加受付とは別に学会事務局の受付が設置されますので、口座自動振替をお申込みでない方は、そちらでお支払いいただくことも可能です。

以上、よろしく願い申し上げます。ご不明の点、ご質問は事務局（TEL./FAX：03-5950-1147, Mail フォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>）までお問い合わせください。

日本独文学会事務局

ドイツ語教育部会総会のお知らせ

日時：2020年6月6日（土）12時10分～12時50分

会場：東京大学 B会場

議題

I 報告事項

1. 2019年度活動報告
2. 選挙結果報告
3. 幹事選出細則の変更について
4. その他

II 審議事項

- 1) 新幹事の承認
- 2) 会則の変更について
- 3) 2019年度決算報告
- 4) 2020年度予算について
- 5) 監事嘱任について
- 6) その他

III 会員からの意見開陳

第 48 回語学ゼミナールのお知らせ

2020 年 4 月

日本独文学会第 48 回語学ゼミナールを下記の要領で開催いたします。今日、生成文法の分野で注目される **Kartographie** をその起源に遡って機能的に問い直し、「超様式的 (übermodal)」展開の可能性を考えます。この関連で通常の話し言葉・書き言葉だけでなく、手話も話題となる予定です。また、例年どおり日本側参加者による研究発表も歓迎します。みなさまの積極的なご参加を心よりお待ち申し上げます。

※コロナウィルスの状況次第で開催要領に変更があり得ることをあらかじめご了承ください。

記

総合テーマ Übermodale Kartographie

招待講師 Daniel Hole 教授 (シュトゥットガルト大学)

※ご経歴や業績等についてはこちらをご参照ください。

<https://www.ling.uni-stuttgart.de/institut/team/Hole-00001/>

期 間 2020 年 8 月 31 日 (月) ~ 9 月 3 日 (木) 3 泊 4 日

会 場 コープイン京都
〒604-8113 京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒屋町 411
<http://www.coopinn.jp/>

定 員 40 名

参 加 費 3 万 4 千円 (会員), 4 万 4 千円 (非会員)

※内訳：参加基本料, 宿泊代および朝・夕食代

※学生および専任職を持たない会員については、所属機関等から出張費等の支援を受けていないことを条件に、参加費補助を行います。加えて、遠方からの参加の場合、旅費の補助も検討します。

申込方法

[1] 氏名 (漢字・ローマ字), [2] 住所 (漢字・ローマ字), [3] メールアドレス, 電話番号 (緊急時の連絡用), [4] 所属と現職 (常勤・非常勤・学生・院生等の別), [5] 性別, [6] 研究発表 (ドイツ語) の有無 (有の場合は題目も), [7] 喫煙・非喫

煙の別, [8] その他特記事項(食事アレルギーなど)を明記の上, 以下の問合せ先にメールでお申し込みください。

※日本独文学会会員以外の方が申し込む際は日本独文学会会員(学生・院生の申し込みの場合は指導教員)の紹介が必要です。紹介者の氏名をお知らせください。あわせて略歴, 参加希望理由(400字程度), 業績リスト(研究業績がある方)も提出してください。

申込締切 2020年6月14日(日)

問合せ先 語学ゼミナール実行委員会 (LS[AT_]tufs.ac.jp)

その他

- 参加申込みの承認は, 日本独文学会理事会にて行われます。参加者正式決定の通知は6月下旬~7月上旬を予定しています。
- 研究発表を希望される方は, ドイツ語 250語程度のアブストラクトを添付してください。上述の参加者決定後, より詳細な発表要旨を提出していただきます。発表の採否は実行委員会にご一任願います。
- ゼミナール終了後, Hole 教授による講演会の開催を希望する大学を募集します。Hole 教授からは講演可能なテーマとして, 以下のものが提案されています:

- 1) *Der Himmel hängt voller Geigen* – Die stativ Lokativalternation im Deutschen
- 2) Binder-Dative und andere ähnliche Argument-Alternationen
- 3) Eine universelle Syntax von Evaluation, Skalarität und Fokusquantifikation für 'nur'-Partikeln
- 4) Objekte sind lustige Objekte
- 5) Syntax und Semantik der *schwärmen*-Alternation
- 6) Die *Bodily-Mapping*-Hypothese und die Deutsche Gebärdensprache

講演会開催をご希望の方はゼミナールの申込締切日までに実行委員会にお申し出ください。その際, 可能な限り謝金の支払いをご検討いただければ幸いです。なお, 講演会場までの交通費や開催地でのお世話を講演会主催者にご負担いただく場合がございます。詳細はゼミナール実行委員会にご相談ください。また, 講演会開催や講演テーマ等の最終決定は, ゼミナール実行委員会にご一任願います。

日本独文学会・語学ゼミナール実行委員会
藤縄康弘(委員長)

**48. Linguisten-Seminar der JGG
Kyoto, 31. Aug. – 3. Sept. 2020**

Das 48. Linguisten-Seminar der Japanischen Gesellschaft für Germanistik wird dieses Jahr in Kyoto unter folgendem Rahmen veranstaltet. Über eine zahlreiche Teilnahme von Ihnen würden wir uns sehr freuen. (Achtung: Änderungen infolge von Coronavirus vorbehalten!)

1. Rahmenthema:

Übermodale Kartographie

2. Gastdozent:

Prof. Dr. Daniel Hole (Universität Stuttgart)

<https://www.ling.uni-stuttgart.de/institut/team/Hole-00001/>

3. Termin: Montag, 31. August bis Donnerstag, 3. September 2020

4. Ort: Hotel CO-OP Inn Kyoto (Einzelzimmer)

Yanaginobamba Str. North of Takoyakushi, Nakagyo-ku, Kyoto 604-8113

URL: <http://www.coopinn.jp/>

5. Max. Teilnehmerzahl: 40

6. Anmeldung:

Bewerbung per E-Mail mit folgenden Angaben an [LS\[_AT_\]tufs.ac.jp](mailto:LS[_AT_]tufs.ac.jp):

[1] Name, [2] Anschrift, [3] E-Mail-Adresse und Telefonnummer (Kontaktadresse bzw. Nummer im Notfall), [4] Affiliation (berufliche Position), [5] Geschlecht, [6] Referat beabsichtigt/nicht beabsichtigt (s. unten), [7] Raucher/Nicht-Raucher, [8] besondere Hinweise (wie z.B. vegetarisches Essen, Nahrungsmittelallergien u.a.).

Interessenten ohne JGG-Mitgliedschaft werden gebeten, der Bewerbungsmail neben den Angaben [1]–[8] ihren akademischen Werdegang sowie die Liste ihrer wichtigsten Publikationen in PDF-Format beizulegen. Bei Nicht-Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundschaftlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Nachbarländern ist zudem eine Empfehlung durch ein JGG-Mitglied in PDF-Format erforderlich. Bei Studierenden ohne JGG-Mitgliedschaft ist diese Empfehlung von dem jeweiligen Betreuer der zugehörigen Institution als ordentliches JGG-Mitglied zu verfassen.

7. Teilnahmegebühr:*

34.000 Yen (bei JGG-Mitgliedschaft oder Mitgliedschaft zu den o.g. germanistischen Verbänden) bzw. 44.000 Yen (ohne JGG-Mitgliedschaft) sind a.O. zu zahlen.

*In der Teilnahmegebühr inbegriffen sind die Grundgebühr, Übernachtung, Frühstück und Abendessen. Für Studierende sowie Teilnehmer*innen ohne feste Anstellung sind unter Umständen Gebührenermäßigungen und/oder Reisekostenzuschüsse möglich.

8. Anmeldeschluss: Sonntag, 14. Juni 2020

Die Auswahl der Teilnehmer*innen bleibt dem JGG-Vorstand vorbehalten.

Vortragsbeiträge zu allgemein linguistischen Themen

Beim Linguisten-Seminar besteht für die Teilnehmer*innen auch die Möglichkeit, ein etwa 30-minütiges Referat zu allgemein linguistischen Themen zu halten. Für die Anmeldung eines Referats (ebenfalls bis zum 14. Juni 2020) ist die Angabe des geplanten Titels sowie die Zusendung eines Abstracts (ca. 250 Wörter) erforderlich. Die Auswahl der Beiträge bleibt dem Organisationsausschuss vorbehalten.

Für Interessierte an der Veranstaltung zusätzlicher Vorträge des Gastdozenten

Wir bitten außerdem um reges Interesse an weiteren Einladungen von Prof. Dr. Hole für zusätzliche Vorträge an Ihren Universitäten nach dem Abschluss des Linguisten-Seminars. Dafür sind von Prof. Dr. Hole folgende Themenbereiche vorgeschlagen:

- 1) *Der Himmel hängt voller Geigen* – Die stativ Lokativalternation im Deutschen
- 2) Binder-Dative und andere ähnliche Argument-Alternationen
- 3) Eine universelle Syntax von Evaluation, Skalarität und Fokusquantifikation für 'nur'-Partikeln
- 4) Objekte sind lustige Objekte
- 5) Syntax und Semantik der *schwärmen*-Alternation
- 6) Die *Bodily-Mapping*-Hypothese und die Deutsche Gebärdensprache

Anmeldungen dazu werden ebenfalls bis zum 14. Juni 2020 angenommen. Honorarzahlungen sind nicht erforderlich, aber durchaus willkommen. Unter Umständen kann es vorkommen, dass die Reisekosten zu den Vortragsorten zu Lasten der einladenden Institution gehen. Um Verständnis bitten wir auch dafür, dass die Entscheidung über die Vortragsorte, -themen u.Ä. letztendlich beim Organisationsausschuss des Linguisten-Seminars liegt.

Organisationsausschuss des 48. Linguisten-Seminars

Yasuhiro Fujinawa (Leitung)

E-Mail: LS[_AT_]tufs.ac.jp

DAAD 奨学金についてのご案内

ドイツ学術交流会（DAAD）は現在、下記の短期奨学金プログラムへの応募者を募集しています。次回の応募締め切りはいずれも4月となっていますので、ご興味のある方はお急ぎください。応募条件や書類についての詳細は、それぞれの募集要項でご確認をお願い致します。

①短期研究奨学金（Forschungskurzstipendien）

対象：博士課程の大学院生，ポストドク

支給期間：1～6ヶ月

支給内容：月額850～1200ユーロ，旅費補助，保険

締切：2020年4月15日（同年10月～の滞在）

2020年11月15日（翌年4月～の滞在）

募集要項：<https://daad.de/go/de/stipa50015434>

②大学教員・研究者のための研究滞在奨学金（Forschungsaufenthalte für Hochschullehrer und Wissenschaftler）

対象：博士号を有する日本の大学・研究機関に勤める教員または研究者

支給期間：1～3ヶ月

支給内容：月額2000～2150ユーロ，旅費補助

締切：2020年4月15日（同年8月～翌年1月の滞在）

2020年10月15日（翌年3月～7月の滞在）

募集要項：<https://daad.de/go/de/stipa50015456>

③元 DAAD 奨学生の再招待（Wiedereinladungen für ehemalige Stipendiaten）

対象：過去に6ヶ月以上 DAAD より助成を受けた者

支給期間：1～3ヶ月

支給内容：月額2000～2150ユーロ，旅費補助

締切：2020年4月15日（同年8月～翌年1月の滞在）

2020年10月15日（翌年3月～7月の滞在）

募集要項：<https://daad.de/go/de/stipa50015492>

なお、その他の2021年支給開始の奨学金プログラムの募集要項は下記の通り、夏ごろから順次公開予定です。

- ・(修士向け) 留学奨学金, 芸術奨学金 : 7月末~8月上旬ごろ公開予定
- ・(博士向け) 研究奨学金 : 7月末~8月上旬ごろ公開予定
- ・(学部・修士・博士向け) 春期・夏期ドイツ語研修奨学金 : 9月中旬ごろ公開予定

最新情報は常に DAAD 東京事務所のホームページ (www.daad.jp) をご確認ください。

何かご不明な点がございましたら, [kurushima\[at\]daadjp.com](mailto:kurushima[at]daadjp.com) までお問い合わせください。

ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ



ゲーテ・インスティトゥート（ドイツ文化センター）は、大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語教育担当教員を対象に、ドイツ派遣奨学金プログラムを実施しています。**2021年度募集予定の**プログラムは以下の通りです。

1. ドイツ語教員のためのランデスクンデ・教授法ゼミナール（2-3 週間）
2. ドイツ語教員のための語学ブラッシュアップゼミナール（2 週間）
3. ドイツのゲーテ・インスティトゥートでの通常の語学コース（4 週間）
 - * 研修期間中の研修費用および宿泊費全額、ならびに旅費の補助金が、ゲーテ・インスティトゥートより支給されます。

< プログラム応募資格 >

- 日本国籍をもつ大学、高等専門学校または高等学校で現在ドイツ語を教えている方、ないし現在ドイツ語教員養成に携わっている方
- これまでドイツ語教育とその促進に貢献しており、研修終了後も少なくとも数年間ドイツ語教育に携る予定であること、またはドイツ関連の仕事をつづけること
- 文化プログラムを含む研修の全プログラムに参加できること
- 研修の前提となる必要なドイツ語力を備えていること
- 研修で得た知識を他のドイツ語教員・関係者にフィードバックすること
- 日本国内のゲーテ・インスティトゥートにおける研修またはプロジェクトに積極的に参加すること

お申し込みは、ホームページ <http://www.goethe.de/ins/jp/lp/lhr/std/jaindex.htm>
または次ページの申込書をA4に拡大コピーし、ご記入のうえ、
2020年10月10日までにメールの添付でお送りください。

詳細は、随時ホームページでお知らせします。

問い合わせ/申込：ゲーテ・インスティトゥート東京
ドイツ語教員研修支援プログラム係

TEL:03-3584-3201 E-Mail: [stipendien-tokyo\[at\]goethe.de](mailto:stipendien-tokyo[at]goethe.de)

申込用紙 - Stipendienprogramm 2021: Bewerbung für ein Stipendium

Datum:

	(lateinische Schrift)	(漢字)
Name		
Anschrift		〒
Tel./Fax		Geburtsdatum:
E-Mail		
tätig an	Institution: Abteilung: als	Seit wann unterrichten Sie Deutsch? Mit wie vielen Wochenstunden?

Vorheriger Aufenthalt im deutschsprachigen Raum:

Wo?	
Wann und wie lange?	
Wozu?	
Stipendium?	

Bitte kreuzen Sie an und ergänzen Sie Ihren Wunschtermin:

- Ich möchte an einem **Fortbildungsseminar** teilnehmen (wann?)
- Ich möchte an einem **Deutschkurs für Lehrer** teilnehmen (wann?)
- Ich möchte an einem **Sprachkurs** teilnehmen (wann?)

Anmeldung bitte bis zum 10.10.2020 bei Frau Maruyama / GI Tokyo

stipendien-tokyo @goethe.de 〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-56

Tel. 03-3584-3201

Fax 03-3586-3069

Bitte schicken oder legen Sie bei (auf Deutsch):

- 1) einen akademischen Lebenslauf
- 2) genaue Charakterisierung Ihrer Lehrtätigkeit (didaktische Schwerpunkte, Lehrwerke)
- 3) Inwiefern Sie schon Kontakte zum Netzwerk des Goethe-Instituts hatten
- 4) ein ausführliches Motivationsschreiben für Ihre Bewerbung

一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金の改定について

【奨学金の趣旨】

日本独文学会は、故岩崎英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩崎奨学金」を創設し、若手研究者の育成のために国際学会の発表に対しての奨学金を支給してきましたが、より必要性の高い援助を行うという観点から、この度より若手研究者の研究成果公開のための奨学金制度へと改定することになりました。

【奨学金の概要】

1. 博士論文の出版に際して、テニユア職を持たない会員に対して、30万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学金の支給は年度総額の上限を設定する（2020年度については60万円）。また、同一会員への支給は1回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い、日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学金は2020年4月より募集を開始する。
5. 奨学金の返済の義務はない。ただし、支給後に、申請対象の研究書の出版を中止した場合、受け取った奨学金を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが、本奨学金と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学金を受けようとする者は、決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。
8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は、外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合、奨学金を支給する。
9. 奨学金の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また、事情により、予告なしにこの事業を終了することもある。

【募集人数】

各年度2件～3件程度。

【応募資格】 以下の条件をすべて満たす者。

1. 日本独文学会員。
2. テニユア職を持たない者。

【応募方法】

1. 下記の必要書類を日本独文学会事務局へ郵送する。a) と b) に関しては同時にファイルを電子メールで hojofatljgg.jp 宛に送付する。
2. 応募締め切り：毎年 6 月 30 日
 - a) 奨学金申請書（3 種類）、学会ウェブサイトから入手
 - b) 原稿
 - c) 誓約書、学会ウェブサイトから入手
 - d) 博士論文の審査に合格したことを証明する文書

【選考方法】

1. 提出された申請書を日本独文学会常任理事会内に設置する審査委員会で審査する。
2. 必要に応じて、審査委員会外の専門家に審査を依頼することがある。
3. 申請から 3 ヶ月程度で申請者に採否を通知する。

【その他】

1. 奨学金内定の通知を受けた申請者は、刊行期日および販売価格等の予定を確認する刊行確約書を提出すること。
2. 刊行物に、日本独文学会岩崎奨学金の助成により出版された旨を明記すること。
3. 内定の翌年 3 月 15 日までに刊行し、同月末日までに刊行報告書および完成本 1 部を本会に寄贈すること。

奨学金審査刊行スケジュール

- ① 申請書（岩崎奨学金出版助成申請書（1）（2）（3）J）の提出（6 月 30 日）
- ② 審査結果の通知（同年 9 月 15 日まで）
- ③ 見積もり書あるいは請求書の提出（同年 9 月末まで）
- ④ 刊行（翌 3 月 15 日まで）
- ⑤ 刊行報告書および完成本一冊の提出（翌 3 月末まで）
- ⑥ 助成金の支給（出版社へないしは（立て替えの場合は）本人への振り込み）

第 17 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果

第 17 回日本独文学会・DAAD 賞が下記のように決定し、2020 年春季研究発表会において授賞式が行われる予定です。なお、審査報告ならびに受賞の弁に関しては、ニュースレター（JGG-Info-Blatt）2020 年秋号に掲載される予定です。

日本語研究書部門：

受賞作なし

日本語論文部門：

針貝真理子：都市の声、餌食の場所——ルネ・ポレシュ『餌食としての都市』における「非場所」の演劇（『ドイツ文学』156号）

ドイツ語研究書部門：

Yoshihiko Hirano: *Miszellaneen zu Celan. Entwürfe zu Naturgeschichte und Anthropologie.* (Würzburg: Königshausen & Neumann 2018)

ドイツ語論文部門：

受賞作なし

次の方々に選考委員をお願いしました。（敬称略）

日本語部門 委員長：武井隆道

委員：荒又雄介，木村護郎クリストフ，寺尾格（副委員長），星井牧子（運営委員）

ドイツ語部門 委員長：清水穰

委員：河崎靖（運営委員），Bettina Gildenhard（DAAD），高木繁光，高田博行，田邊玲子，林良子（副委員長）

日本独文学会 2019 年度秋季研究発表会報告

2019 年 10 月 19 日および 20 日両日、成城大学において秋季研究発表会が開催され、243 名が参加した。

研究発表会の内訳はシンポジウム 3 本、口頭発表 13 本、ブース発表 2 本、ポスター発表 2 本で、活発な討論および意見交換が行われた。また、ドイツ語教育部会総会および教育部会アイデア賞コンテスト受賞式、ドイツ文法理論研究会総会および研究会、オーストリア文学会研究会、ヘルマン・ヘッセ友の会研究会、ならびに書店・出版社による各種展示が行われた。

(企画担当)

第 47 回語学ゼミナール報告

第 47 回語学ゼミナールは、コープイン京都（京都市）を会場に、意味論の分野で数多くの実績をお持ちであるデュッセルドルフ大学の Sebastian Löbner 教授を迎え、2019 年 9 月 3 日（火）から 6 日（金）までの 4 日間の日程で開催された。ゼミナールのテーマ、参加者およびプログラムは以下の通りである。

総合テーマ：Frames als universelles Konzeptformat und Mittel der sprachlichen Analyse

招待講師：Prof. Dr. Sebastian Löbner (Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf)

アジアゲスト：Prof. Dr. Lingling Chang (Nanjing Universität)

参加者：*大喜祐太（三重大学），**藤縄康弘（東京外国語大学），藤井俊吾（東京大学・院生），*稲葉治朗（東京大学），井坂ゆかり（東京外国語大学・院生），*板倉歌（日本大学），カンミンギョン（東北大学），*黒子葉子（獨協大学），Meng-Chen Lee (Universität München・非学会員)，森芳樹（東京大学），室井禎之（早稲田大学），仁科陽江（広島大学），信國萌（東京外国語大学），野間砂理（琉球大学），野添聡（京都大学・院生），*小川敦（大阪大学），岡本順治（学習院大学），岡野伸哉（東京大学・院生），佐分利啓和（関西学院大学・院生），*Manuela Sato-Prinz (DAAD Tokyo)，佐藤宙洋（東京外国語大学・院生），白井智美（東京大学），末松淑美（国立音楽大学），高畑明里（東京大学・院生），*高橋美穂（東北大学），***高橋亮介（上智大学），田中愼（慶應義塾大学），*時田伊津子（日本大学），*筒井友弥（京都外国語大学），山崎祐人（東京大学・院生），山下仁（大阪大学）

(***担当理事，**実行委員長，*実行委員)

プログラム：

9 月 3 日 晩 Löbner 教授講演 I

9 月 4 日 午前 Löbner 教授講演 II

午後 アジアゲスト Chang 教授講演

参加者発表 I (Saburi, Fuji & Mori, Okano, Yamazaki)

9 月 5 日 午前 Löbner 教授講演 III

午後 参加者発表 II (M. Takahashi, Nozoe, Takahata, Nobukuni, Tsutsui, Tanaka, Lee, Fujinawa)

晩 懇親会

9 月 6 日 午前 全体ワークショップ

午後 Löbner 教授の講演に関するディスカッション

今回のゼミナールの参加者は31名、うち大学院生が8名であった。ゼミナール開催に当たっては DAAD に多大なご支援をいただいた。ここに感謝の意を表す。

Löbner 教授には、認知科学において近年注目されているフレームに関する講演を3日間にわたって行っていただいた。これらの講演において、フレームの概念が意味論の領域においても有用であり、従来の分析にはなかった革新的な視点をもたらすことが示された。以下では、各講演の内容を簡単にまとめることでゼミの報告とし、同時に参加できなかった方への情報源としたい。

初日の夕食後、**Frames als universelles Konzeptformat und Mittel der sprachlichen Analyse** (普遍的な概念フォーマットならびに言語分析の手段としてのフレーム) という題名の講演でゼミナールがスタートした。はじめに、フレームとは「任意の事物を表示するための、構造化された情報をもつ特定のフォーマット」であると定義された。例えばパスポートは、ある人物の身元を特定するために、その情報を記述するものである。よって、パスポートはひとつのフレームに相当すると考えられる。このような具体例に基づき、本講演ではフレームがもつ3つの特徴が説明された。第一に、フレームは回帰的 (rekursiv) に組み込むことのできるネットワークとして捉えられる。第二に、情報は属性 (Attribut) とその値 (Wert) という形式をとる。第三に、名辞 (Begriff) には次のような複数のタイプがある。

- ・ 種別名辞 (Sortalbegriff) : **Mensch** のような「通常の」名詞。関係的でなく、内在的に一義的でない。
- ・ 個体名辞 (Individualbegriff) : **Wolfgang** のような固有名詞や、**ich** のような人称代名詞。関係的でなく、内在的に一義的である。
- ・ 関係名辞 (Relationalbegriff) : **Tochter** のような関係的名詞。関係的であり、内在的に一義的でない。
- ・ 関数名辞 (Funktionalbegriff) : **Mutter** のような関数的名詞。関係的であり、内在的に一義的である。

生年月日を例にとると、その属性で表されるものは **der Geburtstag von x** である。つまり、生年月日は関係的であり、内在的に一義的であるため、関数名辞であると言える。ここで **x** の項を **Angelika Postowski** という具体的な人物とすれば、その属性は **GEBURT** となり、その値は **die Geburt** という事象になる。さらにこの値は再び **TAG** という属性を持ち、その値は **03.08.1979** となる。この値は関係的でなく、内在的に一義的であるため、個体名辞であると考えられる。このように、属性は関数 (Funktion) であり、その値はさらに別の関数を含み得る。し

たがって、フレームは原則的に回帰的な構造をもつことになる。

以上の議論に則って、フレームが言語学の記述領域（音韻論，形態論，統語論，意味論，語用論等）にも適用可能であることが，第一講演の終わりに示された。例えば統語的な依存構造はフレームのひとつとみなされる。つまり，その属性は統語的機能であり，その値は文の構成素であると言える。

続いて，2日目の午前には **Lexikalische Semantik einschließlich Wortbildungssemantik**（語彙意味論および語形成意味論）という題目の講演が行われた。本講演の内容は二部に分かれ，前半ではフレームの応用の例として語彙の意味が検討された。後半では語形成意味論の分野におけるフレームの扱いが議論された。

前半部では，まず項同士の比較関係をモデル化するために，コンパレータ (Komparator) という二価の属性が導入された。例えば $\text{C}_{=}(x,y)$ は， x と y が同一であるかないかを示すものである。この属性を用いることによって，さまざまな語彙の意味を適切に捉えることができる。以下では，日本語の動詞「行く」の分析を例として取り上げる。

これまで主流であった Fillmore の格フレームに基づく動詞の分析においては，次のような想定がなされていた。すなわち，ある事象の格フレームは非回帰的であり，そのなかで事象はあらゆる意味役割に対してそれぞれひとつの属性をもち，その値として意味役割をもつ項が付与されるという考えである。この分析は，動詞の文法的振る舞いを説明するうえで有効であるが，結果として同一の格フレームをもつ動詞が多数存在することになるため，個々の動詞の意味を十分に記述することができないという難点がある。それに対して，Löbner 教授が提案する意味分解の手法では，より詳細な意味記述が可能となる。例えば動詞「行く」は，主題 (THEMA) を属性とする中心的ノードで，その項 X はさらにふたつの場所 (ORT) を属性とする。そのふたつの項 A と B はコンパレータ $\text{C}_{\text{ORT}}(x,y)$ によって比較され，非同一の場所であることが示される。 A は「行く」の起点 (QUELLE) の属性の項であり， B は目標 (ZIEL) の属性の項である。「行く」は瞬間動詞であり，「行く」という事象が成立する時点は A の時点より後であり B の時点より前であることが，コンパレータ $\text{C}_{\text{ZEIT}}(x,y)$ によって示されるというものである。

後半部では，名詞の語形成が分析の対象となった。Gang のような動詞派生名詞の場合，動詞 gehen の格フレームを応用し，名詞のフレームが動詞に対してどのような関係にあるかを示すことができる。これに対して，名詞＋名詞の複合語の場合，修飾部と主要部のフレームの結びつき方を明らかにする必要がある。本講演では Luftdruck のような項複合語 (Argumentkomposita), Plastiktüte のような値複合語 (Wert-komposita), Klavierspieler のような動詞句複合語 (Rektionskomposita), Buchladen のようなフレーム複合語 (Framekomposita) の4種類が取り上げられ，

項、材質、用途、意味役割といった情報の記述方法が検討された。

3日目の午前の講演は、**Komposition und Kontext** (合成とコンテキスト) という題目であった。講演の前半には合成が、後半にはコンテキストが議論の中心となった。

意味論の古典的なメインストリームである形式意味論においては、意味的な合成が重要な役割を果たしている。しかし近年、形式意味論の合成の想定は多くの場合において強すぎるのではないかという意見が示されている。すなわち、合成のメカニズムは純粹に言語的な入力によって必ずしも一義的に規定されず、共起する他の語の意味が合成の結果に影響を与える可能性があり、そのような例を考慮すると項の充足は分析として適切ではなく、真理条件だけでは文の意味を十分に扱うことができないのではないかという考えである。

これに対して、Löbner 教授が提案するフレーム理論のアプローチでは、上記の問題をよりよく解決できることが示された。ここで要点を4つあげておきたい。第一に、フレーム理論において合成のメカニズムはフレームのユニフィケーション (Unifikation) として捉えられる。ユニフィケーションとは、ふたつのノードを統合する操作である。第二に、言語的な入力は合成の結果を必ずしも一義的に規定するわけではなく、様々なユニフィケーションが可能であるため、同一の複合的表現に対して異なる解釈が存在することが説明される。第三に、どのようなユニフィケーションが可能となるかは、想定される世界知によって決まる。第四に、フレーム理論は合成を真理条件への還元ではなく、情報の統合と考える。

具体的な分析に先立って、表現 (Ausdruck)、外延 (Denotat)、意味 (Bedeutung) の関係が説明された。フレーム理論の想定では、表現のフレームと外延のフレームは個別に存在し、DENOTAT の属性によって関連付けられる。また、表現のフレームと外延のフレームの間で意味の写像 (Bedeutungszuordnung) が生じるとされる。ここで例として *Pina macht eine Biskuitrolle* という文が検討された。この文の合成的な解釈はその統語構造と意味のフレームの関係として捉えることができる。言い換えれば、合成が生じる際のフレームのユニフィケーションによって、個々の構成素の間に概念的な相互作用が働くことになる。

前半部の議論に引き続いて、後半部ではフレーム理論におけるコンテキストに焦点が当てられた。その際に考察の核となったのは発話フレーム (Äußerungsframe) である。Löbner 教授が想定する発話フレームでは、発信者 (SPRECHER)、受信者 (ADRESSAT)、場所 (ORT)、時間 (ZEIT) といった意味役割を伴う発話の事象が表示される。これらの意味役割は発話のコンテキストの情報を担っている。さらに、発話フレームに含まれるテキスト (TEXT) の属性の値、すなわち発話されたテキストが、外延 (DENOTAT) の属性によって外延のフレー

ムと結びつけられ、その結果、発話の事象と世界知が統合される。以上のように、フレーム理論では、言語的な意味と世界知の間の相互作用をモデル化することが試みられている。また、このような意味において、フレーム言語学は認知科学研究との交点を作り出していると言うことができる。

さて、本ゼミナールでは、Löbner 教授の講演とあわせて、2日目の午後にはアジアゲストの Chang 教授に *Abgrenzung des Pertinenzdativs von dessen verwandten Attributen im Vergleich zum Pertinenzsubjekt im Chinesischen* という題目で講演をしていただいた。さらに、2日目の午後と3日目の午後には、参加者による計12本の発表が行われた。各発表では参加者間での活発な議論がなされ、Löbner 教授からも有益なコメントやアドバイスをいただき、発表者、参加者双方にとって多くの知見を得る機会となった。

最終日の午前には、日本語による全体ワークショップがあった。Löbner 教授の3つの講演を振り返り、大学院生を中心として質問事項をまとめる作業が行われた。参加者間での補足説明もなされ、講演の全容を理解するのに役立つ時間となった。午後には再び Löbner 教授を交えてディスカッションが行われた。午前中のワークショップで準備した質問に対して Löbner 教授から回答をいただき、ゼミナールの総括とした。

以上のように、第47回語学ゼミナールは成功裡に全プログラムを終了した。招待講師の Löbner 教授をはじめ、参加者各位、実行委員各位、また日頃より語学ゼミナールの活動を支援してくださっているすべての学会員の皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げたい。

(文責：黒子葉子)

日本独文学会研究叢書既刊一覧

Nr. 136 第一次世界大戦の諸相—個と全体の視点から—

[Aspekte des Ersten Weltkrieges – aus der Perspektive des Individuums und der Gesellschaft –]

編集者：齊藤公輔

執筆者：齊藤公輔，松浦翔子，前田織絵，北村陽子，樋口 恵，山本
順子

発行日：2019. 10. 19

Nr. 137 Interkulturalität und Intermedialität im deutschen Krimi

[ドイツ・ミステリを読む・観る—インターカルチュラリティとインター
メディアリティの観点から]

編集者：Oliver Mayer

執筆者：長澤崇雄，Oliver Mayer，Stefan Buchenberger，横山 香

発行日：2019. 10. 19

2019 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2019 年 10 月から慶應義塾大学日吉キャンパス（関東会場）と甲南大学岡本キャンパス（関西会場）の 2 会場をテレビ会議システムで結ぶかたちで行っている。なお，今期から Zoom により会場外からの参加も可能となっている。受講者は，ワークショップへの参加に加え，各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また，専用のプラットフォームである Moodle 上では，受講者同士，また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され，受講者・講師双方にとって，ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。

2. 実行委員の着任および退任

2019 年 10 月 18 日に新規実行委員として野村幸宏氏が着任し，2020 年 3 月 31 日をもって田原憲和氏が実行委員を退任した。

3. 2019 年秋開講のコースについて

2019 年秋開講のコースは，前期が 2019 年 10 月から 2020 年 7 月までの 8 回のワークショップで 7 モジュール，後期が 2020 年 10 月から 2021 年 9 月までの 8 回のワークショップで 4 モジュールならびに *Deutsch Lehren Lernen 4*（以下 DLL）の課題，計 11 のモジュールからなる。前期コースには 17 名（関東会場 10 名，関西会場 7 名）の受講者が参加し，2020 年 3 月の時点で第 4 回ワークショップまで終了した。

前期コースのワークショップ開催日，モジュールのテーマ並びに講師は以下のとおりである。

前期コース(2019年10月—2020年9月)

ワーク シヨッ プ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10月26日	導入：コースへの期待； 自身の体験の振り返り 境一三，草本品	M1: 教授法の変遷と教材分析 境一三，草本品
2	11月17日	M1 のレポートの評価と 討論	M2: 受容的能力(聴く・読む) 鷺巣由美子，本河裕子
3	12月21日	M2 のレポートの評価と 討論	M3: 産出的能力(話す・書く) とフィードバック 太田達也，Marco Raindl
4	1月25日	M3 のレポートの評価と 討論	M4: 近年のドイツ語教育の 傾向；CEFR 境一三，太田達也
5	4月25日	M4 のレポートの評価と 討論	M5: 文法とコミュニカティ ブ・アプローチ 太田達也，藤原三枝子
6	5月23日	M5 のレポートの評価と 討論	M6: 自律学習・協調学習，学 習方略 吉満たか子，池田遊魚
7	6月13日	M6 のレポートの評価と 討論	M7: ドイツ語授業の参観 森田昌美，野村幸宏
8	7月25日	M7 のレポートの評価と 討論	講座の総括

2019 年度ドイツ語論文執筆ワークショップ開催報告

2019 年 12 月 7 日・8 日、4 名の招待講師をお迎えして、2019 年度ドイツ語論文執筆ワークショップが開催された。今回のワークショップ参加者は大学院生、若手・中堅研究者を中心にし、非会員の高校生や学部生も交えた計 9 名であった。スケジュールは以下の通り。

7 日（土）

13:30 – 13:40 : 開会挨拶

13:40 – 15:10 : 講演（古矢晋一）・質疑応答，相談

15:20 – 18:20 : 提出論文・レジュメに対するコメント（井出万秀，マヌエル・クラウス）

18:30 – 21:00 : 懇親会

8 日（日）

10:00 – 11:30 : 講演（田中 慎）・質疑応答，相談

13:00 – 15:20 : 論文・レジュメに対するコメント（井出万秀，マヌエル・クラウス）

15:30 – 16:00 : 議論・質疑応答

7 日は、まず古矢晋一氏（立教大学）に「ドイツ語で博士論文を書く：計画，執筆から出版まで－文学・文化研究の場合－」という題目で講演をしていただいた。その後、参加者が提出した論文・レジュメのドイツ語に対して、井出万秀氏（立教大学）が論文添削時の基準となる思考・論理展開に関する理論的位置付けについて、マヌエル・クラウス氏（早稲田大学）が専門教材による練習を挟みながら実践的なイディオムやドイツ語表現の細かなニュアンスの違いなどについてお話を下さった。

8 日の午前中は田中慎氏（慶応義塾大学）に「ドイツ語論文執筆のすすめ－なんのために、誰のために書くのか？－」という題目で講演をしていただいた。午後には、初日に引き続き、井出氏とクラウス氏から提出論文・レジュメに関する詳細なコメントをいただき、最後に参加者を交えて質疑応答が行われた。

今回で 5 回目の開催となり、年々充実したものになっているワークショップであるが、今回も成功裡に終わったのは、様々な方々のご協力のおかげである。講師の井出先生、クラウス先生、講演者の古矢氏、田中氏をはじめ、担当理事各位、参加者各位、実行委員各位、また開催校の関係者各位には、この場をお借りして感謝を申し上げたい。また、ワークショップ開催にあたって学会および DAAD からいただいた財政上のご支援に対しても、ここに記して感謝を申し上げる。

（論文ワークショップ実行委員会 二藤 拓人）

支部報告

北海道支部

- ・2019年12月7日(土)、北海道大学にて総会・第87回研究発表会を開催した
(出席者21名)

研究発表者・題目

中村 寿(北海道大学文学研究院・専門研究員)

マックス・ブロートの „Jüdinnen: ein Roman“ について

室井禎之(早稲田大学)

ドイツ語のコプラの叙述機能と日本語におけるその対応現象

名執基樹(富山大学)

生態系研究から文化研究が学べるもの —ドイツ語圏の歌劇場・作曲家
関係のネットワーク分析をもとに—

研究会終了後、札幌ホテルマイステイズアスペンにて懇親会を開催した

- ・第88回夏季研究発表会は2020年7月11日(土)北海学園大学にて開催予定
- ・会員数67名(2019年12月7日現在)

関東支部

1. 2019年11月24日に成城大学にて第10回研究発表会を行なった。下記の四つの発表がなされた。

中村大介：対峙するふたりの自然研究者—E.T.A.ホフマン『ハイマトカレ』につ
いて—

菅谷優：19世紀パリの言説 『パサーージュ』読解にむけて

積田活樹：飛んでいるのか、漂っているのか—インゲボルク・バツハマンの飛
行機の表象

林敬太：無形文化遺産条約に対するドイツ語圏の動向

2. 幹事会の体制を2020年4月1日より下記の通り変更した。

支部長：山本潤

支部選出理事・庶務：前田佳一

会計：桂元嗣

広報：日名淳裕

東海支部

- 支部会員数118名(2020年2月17日現在)

○2019年10月、機関誌『ドイツ文学研究』第51号を刊行した。

論文

1. 大塚直「後期ホルヴァートのドン・ファン像 —ヴァイマル共和政時代の女性たちが望んだ恋愛について—」
2. 林久博「WertherはVornameかFamiliennameか? —『若きヴェルターの悩み』に関する一考察—」
3. 糸井川修「『人類の崇高な思想』 —世界大戦の回避に向けたベルタ・フォン・ズットナーの呼びかけ」
4. 公地宗弘「存在の危機としての「憂慮」とその克服 —ゲーテの『ファウスト』と『エグモント』—」
5. 神谷裕子「美しいラブストーリー? —カーチャ・ランゲ=ミュラーの『悪しき羊たち』—」
6. 須藤勲「手紙の中の亡霊 —フランツ・カフカの創作行為と手紙の関係について—」
7. 西川智之「1908年ウィーンクンストシャウにおける新しい芸術観の萌芽」
8. 伊東麻衣「Bryophyllum calycinum als Vereinigung von Wissenschaft und Poesie —Goethes „Die Metamorphose der Pflanzen“ gegen E. Darwins „The Loves of the Plants“」
9. 梶浦直子「授業外学習プロジェクトにおけるドイツ語学習者の「気づき」
研究エッセイ

1. 成田克史「ドイツ語イントネーションにおける低音調の低さについて」
2. 鈴木康志「西ゲルマン語（英語・オランダ語・ドイツ語）における命令形の屈折形態について」
3. 毛利真実「後期L. ティーク『生の余剰』における新たな挑みについて」

活動報告

大塚直「日付をもつ音楽作品たち —レクチャーコンサート「ブレヒト・詩と音楽の夕べ」を企画して—」

追悼文

一條正雄「わが友、可知正孝君追悼」

越智和弘「田中道夫先生を偲ぶ」

○合評会

日時：2019年12月7日（土）10時より

場所：中京大学

上記の機関誌に掲載された論文の合評会が開催され、論文執筆者7名を含む17名で活発な議論が行われた。

○2019年度日本独文学会東海支部総会・冬季研究発表会

日時：2019年12月7日（土）14時より

場所：中京大学名古屋キャンパス5号館2階521教室

1. 総会

2. 研究発表

- 1) 田村建一：無生物主語他動構文の使用頻度に関する対照研究 —ドイツ語とルクセンブルク語に焦点を当てて
- 2) 石橋奈智：読者から国民へ —フーゲー・フォン・ホーフマンスタールの言語的大ドイツ主義
- 3) 太田達也：変革期にある日本のドイツ語教育とその将来を担う教員の育成

3. 講演会

境一三：欧州における言語教育の動向と日本のドイツ語教育の将来

○シンポジウム「Gustav Klimt und seine Zeit クリムトとその時代」

日時：2019年9月22日（土）13時半～15時半

場所：豊田市美術館講堂

主催：豊田市美術館，共催：日本独文学会東海支部

登壇者：藤井たぎる，西川智之，山口庸子，北村陽子，古田香織，前田朋美，角山朋子

○シンポジウム+レクチャーコンサート「劇作家ホルヴァートと音楽家ハンス・ガル」

日時：2020年2月15日（土）14時～17時

場所：愛知県立芸術大学室内楽ホール

主催：愛知県立芸術大学教養教育・ドイツ語研究室，共催：日本独文学会東海支部

第1部：シンポジウム

第2部：ハンス・ガル作品のレクチャーコンサート

○支部幹事の選挙

支部幹事のうち3名が改選された（開票は2019年12月7日，上記合評会の後）。任期は2020年1月から2年。

2020年1月11日に行われた幹事会で2020年の幹事の分担が以下のように決められた（下線が今回の当選者，下線なしは留任幹事）。

支部長： 長澤崇雄
支部選出理事： 糸井川修
庶務： 大喜祐太，北村陽子
会計： 樋口恵，前田織絵
編集： 林久博，梶浦直子

京都支部

○支部ホームページの新設

2019年5月1日より開設。 <http://jggkyoto.org/>

○日本独文学会京都支部2019年度春季研究発表会

日時：2019年6月29日（土）

会場：龍谷大学深草キャンパス

参加者数：約50名

研究発表

1. エンツェンスベルガー『点字』における詩と社会の関係をめぐ
る問題—テーオドル・アドルノへの批判的応答—
橋本紘樹（京都大学非常勤）
2. 『コリントの花嫁』における歪められた自己としてのヴァンパイ
ア
森口大地（京都大学非常勤）
3. コミュニスト・ナイト・フィーバー！
—東ドイツのディスコがつくるポップカルチャー—
高岡智子（龍谷大学）

○学会誌『Germanistik Kyoto』について
第20号を刊行。

○「読み切りブックレット・ドイツの文化」について

2016年度から始まった事業で、京都支部がゲルマニスティクに関する学術業績を広く社会に紹介するために刊行するブックレット。応募資格者を専任職のない支部会員に限定し、一刷の費用を支部が助成。2019年度からは翻訳も対象としている。

○日本独文学会京都支部 2019 年度秋季研究発表会

日時：2019 年 11 月 24 日（日）

会場：京都府立大学

参加者数：約 70 名

研究発表

1. ゴート語における動詞接頭辞 ga- と分析的な完了形の比較研究
野添 聡（京都大学大学院生）
2. レーナウと検閲—『ドン・ファン』における三月前期の時代徴標について
児玉 麻美（大阪府立大学）
3. バルバラの『ゲッティンゲン』（独語版，1967 年）の成立に関わった人々
中祢 勝美（天理大学）

○2020 年 1 月末現在の会員数は 146 名

○2019 年度支部役員

支部長：松村朋彦（京都大学）

支部選出理事：河崎靖（京都大学）

編集委員：田原憲和（立命館大学），吉田孝夫（奈良女子大学）

渉外広報委員：羽根田知子（京都外国語大学），細見和之（京都大学）

会計委員：熊谷哲哉（近畿大学）

庶務委員：川島隆（京都大学），谷口栄一（大阪府立大学）

阪神支部

○Thomas Stangl 氏朗読会

日時：2019 年 11 月 10 日（日）16:00～

場所：大阪大学文学部本館 461 号室

テキスト：Passagen aus „Fremde Verwandtschaften“ und „Die Geschichte des Körpers“

参加者：6 名

○第 230 回研究発表会

日時：2019 年 11 月 23 日（土・祝）13:30～

場所：神戸女学院大学 デフォレスト記念館 D-208 教室

参加者：27 名

研究発表会

- 1) 別府陽子 (大阪大谷大学) : 『ブッデンブローク家の人びと』にみる Th. マンのディレクタント観—クリスティアン・ブッデンブロークを中心に
- 2) 田村和彦 (関西学院大学) : レーベレヒト・ミッゲと「緑」のアヴァンギャルド
- 3) 湯浅英男 (神戸大学) : 無生物主語 lassen 使役構文をめぐる文法的諸相—Sie [=Schnellzüge] lassen den Zwiebelturm der Kirche Pfeifferings beiseite liegen, [...]の成立条件をどのように理解すべきか

○2020年1月31日現在の会員数は249名

中国四国支部

○2019年10月21日 機関誌『ドイツ文学論集』52を発行した。

論文

1. Anette Schilling: „Fragen ohne Antworten“ Eine sprachwissenschaftliche Analyse der literarischen Verwendung von Fragen und Antworten in Friedrich Dürrenmatts Drama *Die Physiker*
2. 木田 綾子: 増殖するおしゃべり — 枠物語として読むカフカの『城』—
3. 杉林 周陽: 〈見えるもの〉と〈見えないもの〉— クライストの「逸話」について —

○2019年11月9日 高知大学において中国四国支部第68回総会ならびに研究発表会を開催した。参加者45名。

幹事会 (11:00~12:00)

総会 (13:00~13:30)

1. 支部幹事・役員交替について原案のとおり承認した。

役員・幹事 (2019年11月より) 下線部新任

支部長 久保田聡 (岡山大学)

支部選出理事 高池久隆 (岡山理科大学)

地区幹事 **【四国】**

最上英明 (香川大学) 井戸慶治 (徳島大学)

斎藤昌人 (高知大学) 松尾博史 (松山大学)

【岡山・鳥取】

宮川栄司 (岡山大学) 香月恵里 (岡山商科大学)

【広島・島根】

今道晴彦（広島大学）
庶務 宮川栄司（岡山大学） 由比俊行（岡山大学）
編集委員会 [委員長] 大杉 洋（岡山大学）
[副編集長] 三木恒治（岡山理科大学）
会計 香月恵里（岡山商科大学）

また、日本独文学会の社団法人化に伴い今後それに対応した形で理事選出作業を実施していくことが確認された。

2. 決算および予算について原案のとおり承認した。
3. 2020年、2021年および2022年の支部幹事会・総会・研究発表会は、それぞれ広島・島根地区、愛媛地区、岡山地区で開催することが確認された。
4. 2020年度以降の支部事務局を四国地区に置くことが承認された。それに伴い次回支部学会までに新役員の人選を終えておくこととなった。
5. 日本独文学会ホームページに当支部研究発表会の開催案内を掲載することに関して、各年度における開催校の意向を踏まえ、掲載の有無を決定することとなった。

研究発表会（13:40～17:00）

（司会：土屋 京子／Stefan Hug）

1. 小林 哲也：W・ベンヤミンがK・クラウスにみた「ユダヤ性」 — B・フィアテルの『カール・クラウス』との比較検討を通じて —
2. Akira Hotta: Klassizismus und Modernitätsbewusstsein in der deutschsprachigen Erzählliteratur zu Beginn des 20. Jahrhunderts
3. 杉林 周陽：正気を失わせる音楽の魔力 — クライストの『聖ツェツィーリエ』における「伝説」の諸相 —
（司会：丸井 一郎／Stefan Hug）
4. 藤縄 康弘：ドイツ語の語彙と文法 — 学習基礎語彙の独英対照から見えること —
5. Anette Schilling: Ulrich Plenzdorf: *Die neuen Leiden des jungen W.* – Ist das noch Literatur für den DaF-Unterricht?
6. 古川 昌文：カフカはナチズムを予言したか — 長篇『訴訟』をめぐって —

○2020年1月6日現在の会員数は84名＋賛助会員5社。

西日本支部

- 2019年1月14日 Iris Hermann 教授講演会（福岡大学）福岡大学人文学部ドイツ語学科と共催
- 2019年3月25日 Norbert Eke 教授講演会（九州大学）九州大学大学院人文科学研究所独文講座協力により主催
- 2019年5月13日 Winfried Menninghaus 教授講演会（九州大学）フンボルト財団と共催
- 2019年7月13日 「ドイツ語スピーチコンテスト 2019」（福岡大学）後援
- 2019年9月8日～12日 「第31回インターユニ西日本」（鹿児島 KAPIC センター）開催。学生参加者 28 名。
- 2019年11月16日 支部学会誌『西日本ドイツ文学』第31号発行。掲載論文・書評等は以下のとおり。

論文

- 胡屋 武志：古代ギリシア研究から汎神論的世界観へ
— フリードリヒ・シュレーゲルの「文献学の哲学」における芸術家の使命 —
- 竹岡 健一：第二次世界大戦中のドイツにおける前線兵士への本の販売形式について

研究ノート

- 佐々木博康：カフカ『判決』の物語構造

書評

- 竹岡健一著：『ブッククラブと民族主義』 中島邦雄
- 野村優子著：『日本の近代美術とドイツ』『スバル』『白樺』『月映』をめぐって』
木田綾子
- 嶋田洋一郎訳：『ヘルダー民謡集』 平松智久
- 千石喬・高田博行編，千石喬・木村直司・福本義憲・岩井方男・重藤実・岡本順治・高田博行・荻野蔵平・佐藤恵訳：
『グリム兄弟言語論集 言葉の泉』 大野寿子
- F.G.ユンガー研究会訳，今井敦・桐原隆弘・中島邦男監訳：

F.G.ユンガー『技術の完成』 小黒康正

新刊紹介

貫橋宣夫著：『ハイム小伝 — 現代史を駆け抜けたユダヤ人作家』
栗山次郎

報告

日本独文学会西日本支部 2018 年度活動報告 荻野蔵平
九州大学人文科学研究院独文学研究室第3回国際コロキウム報告
嶋田洋一郎

Protokoll des Gastvortrags von Frau Prof. Iris Hermann

Else Lasker-Schüler in Palästina: Das Hebräerland und Mein blaues Klavier
André Reichart

Protokoll des Gastvortrags von Prof. Norbert Otto Eke Maria Büttner

ヴィンフリート・メニングハウス教授講演会報告
— 一人文学の真の総合をめざして— 武田利勝
第31回インターウニ西日本報告 坂本彩希絵

○2019年11月16日・17日 北九州市門司区旧大連航路上屋にて日本独文学会
西日本支部第71回総会・研究発表会を開催。参加者52名。

研究発表タイトルと発表者は以下のとおり。

第1日

第一会場

1. メタ・ロゴス論としてのニーチェ
『道徳以外の意味における真理と虚偽について』 仲井幹也
2. ノヴァーリスにおける質的遠近法 大澤遼可
3. 表現主義抒情詩での夢と幻 —トラークルの『憂鬱』 保坂直之
4. 他者との出会いと働く日常
— クレメンス・マイヤー『静かなる衛星』 杵渕博樹

第二会場

1. 現代ドイツ語の *Anglizismen* 使用に関する一考察
— 類義語 *clever, cool, smart* の意味場の対立— 深水沙織
2. 「所有の与格」は動詞の目的語とみなすべきか? 片岡宜行
3. ニーチェとレーは虚栄心について何を話したのか 栗山次郎
4. J. Ch. F. グーツムーツの身体論 田口武史

第2日

1. **Wohin treiben wir?** : ジークフリート・ビングと
ユーリウス・マイアー＝グレーフェの同時代美術論 野村優子
2. 幸福な「専制政治」
—エンゲルベルト・ケンプファー の日本観とその形成 岡野薫
3. ナチス・ドイツにおける「ドイツ図書週間」について 竹岡健一

○会員数 (2019年11月5日現在) : 160名

ドイツ語教育部会報告

1. 編集

『ドイツ語教育』第24号を2020年3月20日に発行した（編集長：木村護郎クリストフ幹事）。第24号では特集「インクルーシブ教育と外国語教育」およびフォーラム「ドイツ語教育におけるメディア」を組んだ。

2. 企画

- 1) 2019年日本独文学会春季研究発表会1日目の6月8日（土）14:20～17:30にドイツ語教育部会企画講演会を開催した。

テーマ：インクルーシブ教育と外国語教育

パネリスト：

齊藤公輔（中京大学）	インクルーシブ教育とドイツ語教育の現場
山路朝彦（獨協大学）	多様な学生との共生を前提とした教育組織の構築
村上加代子（甲南女子大学）	英語教育のユニバーサルデザイン実現に向けた課題
中川正臣（城西国際大学）	韓国語教育におけるインクルージョンをいかに実現していくか

- 2) 2019年度日本独文学会秋季研究発表会2日目の10月20日（日）に「斬新なドイツ語学習法 mit スマホ」をテーマにアイデア賞コンテストを開催した。
- 3) JaF-DaF Forum 実行委員会が主催で2020年2月28日にレーゲンスブルク大学にて開催された第7回 JaF-DaF フォーラムを共催した。

3. 大学入試問題検討委員会

- 1) 独立行政法人大学入試センターからの依頼に基づき、大学入試問題 検討委員会は、「令和2年度大学入試センター試験（ドイツ語）の試験問題に関する意見・評価」（本試験および追試験）を太田達也部会長の名義で作成し、2020年2月28日付けで大学入試センターに提出した。評価書の作成は、太田達也部会長の他、野村幸宏幹事、末松淑美幹事、高橋秀彰、筒井友弥の各委員が担当した
- 2) 2019年度春季研究発表会（学習院大学）の6月8日（土）13:00～17:30 および6月9日（日）10:00～12:00にK会場にて2019年度の国公立大学ドイツ

語入試問題の展示を行った。

4. ドイツ語教員養成・研修講座

日本独文学会および東京ドイツ文化センターとの共催で開催されている「ドイツ語教員養成・研修講座」は、2019年10月より関東会場（慶應義塾大学日吉キャンパス）および関西会場（甲南大学岡本キャンパス）を会場として開催されている。参加者は関東会場10名、関西会場7名である。

会員数（2020年1月7日現在）は、正会員491名、準会員64名、賛助会員：10団体の計565名／団体である。

<文責 境一三>

ドイツ語学文学振興会より

第 60 回ドイツ語学文学振興会賞選考について

第 60 回ドイツ語学文学振興会賞は、Infoblatt 編集時において審査委員会で審議中です。審査結果は、結果が判明し次第、ドイツ語学文学振興会ウェブサイト (<http://www.dokken.or.jp/foundation/>) でお知らせする予定です。なお、授賞式についても、同ウェブサイトでお知らせする予定です。

なお、本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。しかし近年『ドイツ文学』以外の研究誌に掲載された論文の応募が少なくなっており、授賞にふさわしい研究が埋もれていることが懸念されます。

そこで振興会としましては、日本独文学会会員からの積極的なご推薦をお願いしたく存じます。ご指導に当たられていたり、お知り合いでいらっしゃる若手研究者の優れた論文をお目にされましたら、是非ご推挙ください。

(文責：武井隆道)

2019 年度全国大学院 Germanistik 関係論文題目

大学名および氏名は 50 音順です。学位取得は、断り書きがない場合は、2019 年度下半期をあらわします。

博士論文

京都大学

松波 烈：近現代ドイツ文学における「人工的」な様式

—ヨハン・ハインリヒ・フォスの詩的技法を中心に— (2019 年度上半期)

稲葉瑛志：「古典的近代」の「危機」とエルンスト・ユンガーの「詩的政治」

—空間・技術・形態—

岡野 要：ヴォイヴォディナ・ルシン語の移動動詞の研究 — 語彙体系の記述と

言語接触による変化を中心に —

籠 碧：20 世紀前半ドイツ語圏文学における「狂気」のイメージ — シュニッ

ツラー, デーブリーン, ツヴァイク —

東京外国語大学

信國 萌：事象を項に取るドイツ語形容詞と事象を表す語句の統語論的実現と意

味的特性 — 事象のアスペクト的解釈の対立を手掛かりに —

東京大学

葛西敬之：境界の散歩者 — ローベルト・ヴァルザーの詩学について

修士論文

大阪大学

瀧澤実帆：ドイツの書店における Beratung — 職業教育から実務へ —

松山礼子：小説にみる読書行為とその環境 — 18 世紀後半ドイツの作品を中心に

—

学習院大学

白鳥 葵：ファミ・ファタルの表象とその受容 — ヴェデキントの“ルール”を中心に

関西大学

小西 優貴：Interkulturelles Lernen in den Schulbüchern für das Fach Deutsch an
Grundschulen in Deutschland: Inhaltsanalyse der integrativen Deutschlehrwerke

永沼琴子：ルター聖書における句読法の通時的考察

関西学院大学

松永真輝：「時」と「条件」を表す従属接続詞の諸相 — ドイツ語とオランダ語を
中心に

京都大学

網谷 優司：Die Tragweite des Ödipuskomplexes in der Theorie Sigmund Freuds

石ヶ森 未喜：Narration und Identität in Kafkas *Das Schloß*

井上 瞬：古ザクセン語『ヘーリアント』の話法についての研究

小畦 孝正：Text und Werk: Max Brods Edition von Kafkas Nachlass

白坂 彩乃：R・M・リルケの〈所有なき愛〉について — 『マルテの手記』
を中心に

鈴木 一存：意味変化の原理 — ドイツ語語源辞典の意味記述を基盤にして —

鈴木 優香：ドイツ語形容詞 *klein* の意味変化に関する通時的考察

中西 志門：古英語における時を表す副詞的格の用法 ～ 特に『ベオウルフ』
を中心に ～

中村 徳仁：ポスト・フランス革命期における F・W・J・シェリングの政治思
想

九州大学

池田奈央：E. T. A. ホフマン『詩人と作曲家』に関する一考察 — 間メディア的
創作行為の実践 —

慶應義塾大学

積田活樹：インゲボルク・バッハマンにおける飛行機の表象 — 初期詩作品とエ
ッセイ「盲目の乗客たち」について —

フォン・ボルケ・亜弓：マインホルト作『修道院の魔女』とシドニア伝説
時田のぞみ：世紀転換期の「新しい女性」たちによるニーチェ受容
谷口由希：『はてしない物語』における“命名”の問題について

東京大学

五十嵐 遥也：ローベルト・ムージル『合一』における認識論的詩学
伊藤 望：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』における、ヴィルヘルムの修業とフィリーネの関係について
堺 祐希：行為するメフィストフェレス — ファウスト本とゲーテの『ファウスト』の比較から —
相馬 巧：音楽言語の自己否定的な身振り — テオドーア・W・アドルノの演奏理論
平野 遥海：フリードリヒ・ヘルダーリン 後期讃歌の叙述の底にあるもの
山中慎太郎：ゲーテと植物の詩学

東京外国語大学

中川美枝子：エリアス・カネッティの『眩暈』における「目」の機能 — 「書物人間」の世界認識と視覚 —

一橋大学

小野寺真美：リュッケルトの『愛の春』に基づくシューマン作曲の2つの歌曲 — 連作歌曲集の再想像と新しい試み —

広島大学

濱田 詩織：Die Bedeutung des Wassers in den späten Novellen Theodor Storms

『一般社団法人 日本独文学会名簿（2019年発行）』正誤表

おわびして下記の通りに訂正いたします。

頁	掲載箇所（敬称略）	誤（falsch）	正（richtig）
付録 18	株三省堂	101-0051	101-8371

訃 報

日本独文学会ならびにドイツ語教育界の発展にご尽力くださいました次の方がお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

三木 正之 殿 (2018. 7. 13)

藪前 由紀 殿 (2018. 11. 7)

古賀 允洋 殿 (2019. 4. 13)

Elisabeth Gößmann 殿 (2019. 5. 1)

可知 正孝 殿 (2019. 6. 1)

森島 吉美 殿 (2019. 7. 9)

芳賀 和敏 殿 (2019. 10. 29)

あとがき

ニュースレター2号（Info-Blatt2000年春号）をお届けします。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今年は例年とは大きく異なる年度替わりになってしまいました。卒業式や入学式を中止、あるいは縮小して実施した大学なども多いことと思います。また、新学期の開始時期や学年歴がなかなか確定しないなど、学会員の多くが関わるドイツ語授業にも様々な影響があるかと思えます。夏に予定されていた東京オリンピックも延期されることになり、東京都知事はオーバーシュート（爆発的感染者急増）への危惧を表明しています。気が付けばヨーロッパも大変な状況になってしまい、学会員の中には渡航の予定を中止したり変更したりされた方も多いことと思います。

原因は異なりますが、9年前にも東日本大震災と原発事故、それに続く計画停電を考慮した学年歴や授業時間の変更などがありました。日本独文学会でも3月の文化ゼミナールと教授法ゼミナールは中止され、春季研究発表会も中止されました。これら諸事業の中止への対応、また被災地に在住する学会員への配慮などについて、多くの議論が重ねられたことを当時の理事会のメンバーとして思い出します。その時は解決不可能に思えた案件も学会員の皆様のご理解とご協力のおかげで気が付いたら乗り切れていました。

思えば1年前の今頃は日本独文学会の法人化を前にして、対処すべき案件が山積していて慌ただしく過ごしていました。法人化して1年になろうとする現在、コロナの影響もあり、残された課題をあやうく忘れそうになってしまいますが、世の中の騒がしさに惑わされずに残された課題を粛々とこなして、法人化した日本独文学会のよりよい在り方を探りたいと改めて気を引き締めています。

最後になりましたが、原稿をお寄せいただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

成田 節

編集

一般社団法人 日本独文学会庶務委員会

宮田 眞治（委員長）

川島 建太郎（編集担当） 白井 智美（編集担当） 橘 宏亮（編集担当）

田中 慎（編集担当） 成田 節（編集担当）

編集・発行

一般社団法人 日本独文学会

170-0005 東京都豊島区南大塚

3-34-6 南大塚エースビル603

電話03-5950-1147

振替00160-9-135018

E-Mail（メールフォーム）：

<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

ニューズレター2020年春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2020

2020年4月3日発行